

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

1 工場概要

- ▶ 住所 愛知県小牧市大字東田中字西田100-1
- ▶ 従業員数 88名(その他協力会社28名) 合計116名
- ▶ 敷地面積 25,767㎡

2 事業概要

- ▶ 事業内容
 - ・プラスチック製品の製造加工ならびに販売
 - ・管工事の請負施工に関する業務
 - ・上記に付帯する一切の業務
- ▶ 主要製品
 - ・各種硬質塩化ビニル管
 - ・下水道用硬質塩化ビニル管
 - ・水道用ポリエチレン二層管
 - ・下水道推進工法用硬質塩化ビニル管
 - ・硬質塩化ビニル管用継手



3 工場変遷

- | | |
|-------------|---|
| 昭和27年11月26日 | 名古屋市に会社設立。軟質塩化ビニルシート、硬質塩化ビニル管用コンパウンド、各種押出成形品の製造販売を開始。 |
| 昭和31年 8月 | 硬質塩化ビニル管製造販売を開始。 |
| 昭和36年10月 | 本社及び工場を小牧市に移転。 |
| 昭和39年 7月 | 硬質塩化ビニルシートの製造販売を開始。 |
| 昭和56年 4月 | ポリエチレン管の製造販売を開始。 |
| 平成 2年10月 | 岐阜県美濃市に工場建設し、シートの生産を本社から移設して生産開始。 |
| 平成10年12月 | ISO9002審査登録 |
| 平成12年10月 | ISO14001審査登録 |
| 平成14年12月 | ISO9001:2000移行認証取得 |
| 平成17年 7月 | ISO14001:2004移行認証取得 |

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

4 環境方針

▶ ISO環境方針

日本プラスチック工業株式会社本社、本社工場及び美濃工場は、地球環境保全が人類共通の課題であり、企業の責務であることを認識し、環境保全に万全の配慮と不断の努力を行います。

- 1) 硬質塩化ビニル・ポリエチレン等のプラスチック管及び継手、ポリスチレン・ポロエチレン等のプラスチックシート及びプレートの生産活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的維持、改善及び汚染の予防を図り、以下の環境保全に努めます。
 - ① 廃棄物のリサイクル化及び減量化を推進します。
 - ② 設備や機器の高効率化と生産プロセスの改善により電力等の省エネルギーを推進します。
 - ③ 技術的、経済的に可能な範囲で騒音レベルの改善及び水質汚濁防止を推進します。上記の環境目的及び目標を定めると共に、それらの達成のため環境マネジメントプログラムを作成し、その推進に当社で働く全ての人が一丸となって努力します。
- 2) 環境関連法、条例及び当社が同意したその他の要求事項を順守することに努めます。
- 3) 地域との調和を図ると共に、地域の環境保全活動に積極的に参加します。
 - ・この環境方針は、教育及び啓蒙活動を行い、当社で働く全ての人に周知徹底を図ります。
 - ・この環境方針は、一般の人でも入手できます。

平成18年4月3日
日本プラスチック工業株式会社
代表取締役社長
高橋 幸夫

▶ ISO認証取得状況

- 平成10年12月 ISO9002(財)日本規格協会に審査登録(JSAQ381)
平成11年12月 ISO9002第1回定期維持審査実施
平成12年10月 ISO14001(財)日本規格協会に審査登録(JSAE276)
平成12年12月 ISO9002第2回定期維持審査実施
平成13年10月 ISO14001第1回定期維持審査実施
平成13年12月 ISO9002第1回更新審査実施
平成14年10月 ISO14001第2回定期維持審査実施
平成14年12月 ISO9002第1回-1定期維持審査
平成15年 9月 ISO14001第1回更新審査実施
平成15年12月 ISO9001第1回-2定期維持審査
平成16年 7月 ISO9001第2回更新審査、ISO14001第1回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成17年 7月 ISO9001第2回-1定期維持審査、ISO14001第1回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成18年 7月 ISO9001第2回-2定期維持審査、ISO14001第2回更新審査(Q/E複合審査)実施

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

5 目標及び実績

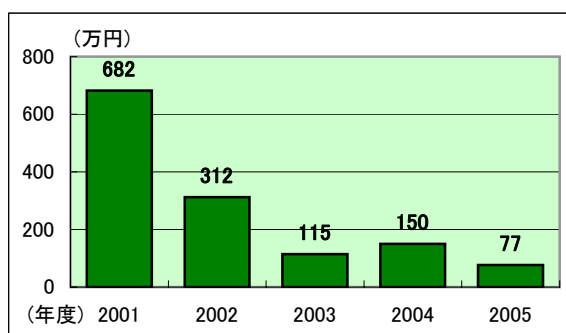
課題	テーマ	管理指標	基準年度	2005年度		
				目標	成果	自己評価
循環型社会の形成	産業廃棄物総排出量の削減	排出量	2004	▲5%	▲5.3%	◎
	ゼロ・エミッション化	再資源化率	—	95%	97%	◎
地球温暖化防止	CO ₂ 総排出量	t-CO ₂	2003	▲2%	0.3%	×

※自己評価の基準 ◎:目標超過達成 ○:目標達成 △:目標一部達成 ×:目標未達成

6 環境会計

① 環境投資

2005年度:77万円



② 環境保全効果

効果の内容	効果	2004年度	2005年度	効果	対前年度比
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)	97,856	100,258	2,402	2.5%
	水使用量(m ³)	199,247	176,477	▲22,770	▲11.4%
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO ₂ 排出量(t)	4,189	4,301	112	2.7%
	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	NO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	ばいじん排出量(t)	—	—	—	—
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	0.11	0.09	▲0.02	▲18.2%
	廃棄物排出量(t)	42.10	39.90	▲2.20	▲5.2%
	廃棄物埋立量(t)				

③ 経済効果

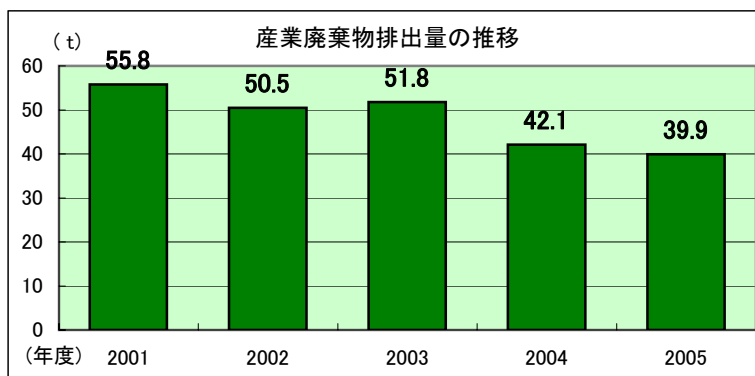
分類	内容	年間効果
省エネルギー対策	工場蛍光灯間引き化、コンプレッサーインバーター化他	618.4 万円
ゼロ・エミッション化対策	廃棄物の有価物化	236.7 万円
物流環境保全対策		
合計		855.1 万円

7 環境パフォーマンス

① 循環型社会の形成

廃棄物排出量の削減

2003年度は、木製パレット及びパイプ保管用木製枕木を大量に廃棄したため、目標未達となりました。現在は、できる範囲で50cm以下に切断して、市の焼却場で処分しています。



ゼロ・エミッション化

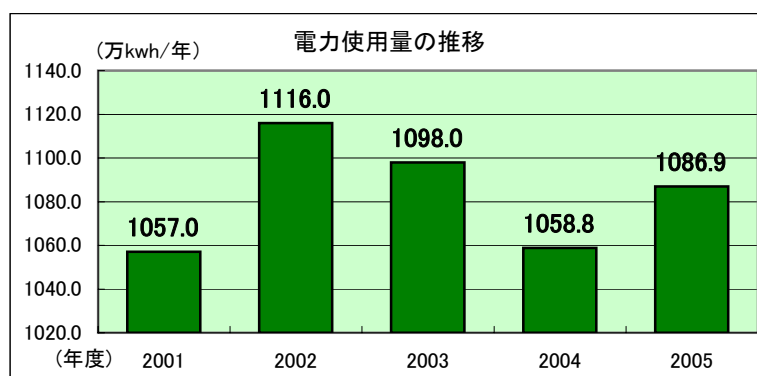
2005年度: 94.2%

2005年度から取り組みを始めたため、昨年度の数値だけの報告となります。

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

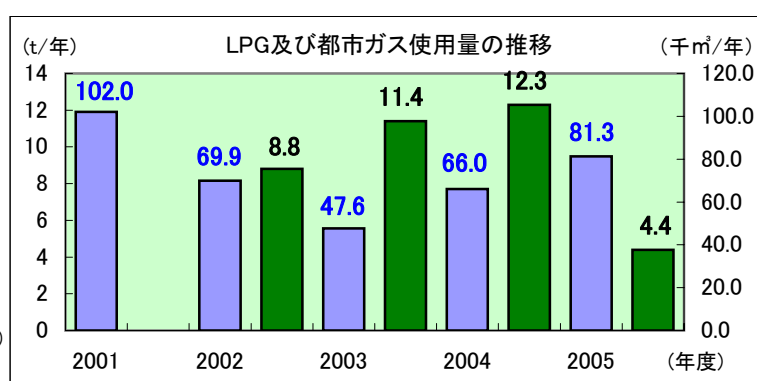
② 地球温暖化の防止

省エネルギー、
温室効果ガスの削減

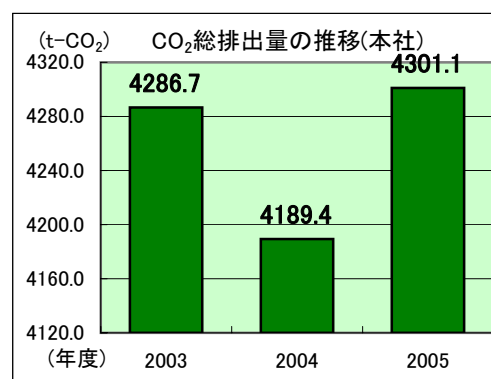


LPG及び都市ガス使用量の
削減

都市ガス使用量 (千m³/年)
LPG使用量 (t/年)



CO₂総排出量の削減



※目標値は、平成15(2003)年度基準として、3年後に2%削減する。

③ 有害化学物質の削減

PRTR法対象物質の排出量・移動量

(kg)

政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
230	鉛及びその化合物		—	—	—	—	90

8 環境コミュニケーション

① 地域の皆様との交流

名 称 東田中地区秋祭りに参加

日 付 平成17年10月9～10日

② 地域美化活動

名 称 環境月間本社工場周辺清掃活動

日 付 平成18年6月23日

参加人数 15名



本社工場周辺清掃活動

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

9 サイトデータ

▶ INPUT

項目	単位	使用量	熱量換算GJ
エネルギー	電気	万kWh	1,087
	石炭コークス	t	—
	都市ガス	千m ³	81.3
	灯油	kℓ	1.4
	ガソリン	kℓ	8.7
	重油	kℓ	—
	LPG	t	4.4
	他	—	—
合計			100,258

水使用量	万m ³	17.6
------	-----------------	------

▶ OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	4,301
---------------------	-------------------	-------

排水口名	放流先	項目	単位	排水口名:パイプ工場		排水口名:加工工場	
				規制値	測定値	規制値	測定値
排水	公共用水域	pH	—	0.5～8.6	7.7	0.5～8.6	7.4
		BOD	mg/ℓ	160	2.3	160	2.3
		COD	mg/ℓ	160	1.0	160	0.5未満
		SS	mg/ℓ	200	1.0	200	1.0未満
		N-ヘキサン	mg/ℓ	5	1.0	5	1.4
		鉛及びその化合物	mg/ℓ	0.1	0.02未満	0.1	—
		亜鉛	mg/ℓ	0.1	0.02	0.1	—
		COD総量規制値	kg/日	—	—	—	—
		窒素総量規制値	kg/日	—	—	—	—
		りん総量規制値	kg/日	—	—	—	—
	下水道	pH	—	5.7～8.7	—	5.7～8.7	—
		BOD	mg/ℓ	300	—	300	—
		COD	mg/ℓ	—	—	—	—
		SS	mg/ℓ	300	—	300	—

廃棄物排出量	t	39.9
再資源化率	%	94.2